病院図書館　2000；20(3)：76-78

特集　看護部と図書館員とのかかわり

国立京都病院看護部の図書館活動

岩島 貴久美

Ⅰ．はじめに

国立京都病院は国の政策医療に則り、内分泌・代謝の準ナショナルセンター、成育医療の基幹医療施設、癌・循環器、腎・感覚器などの専門医療施設として、また、エイズ、国際医療協力分野の医療を主に行っていく。そのために政策医療分野の看護教育、卒後教育・看護研究活動を支援できるように、図書の充実や整備、その利用を図る目的で図書館活動を行っている。そこでここでは、国立京都病院の看護部図書室について、当院の看護部図書委員会の活動を中心に紹介したい。

Ⅱ．看護部図書委員会

国立京都病院には看護部が管理する図書室がある。病院の図書室の一角を看護部の図書室として使用し、1006冊の図書と看護雑誌の管理をし、各看護単位で保管している図書の管理も行っている。このような図書室を看護部が持っているところは少ないだろう。

看護部委員会には、教育委員会・記録委員会・業務委員会・図書委員会などがある。図書委員会の委員長と副委員長は看護婦長が努め、各看護単位から各々１名ずつ委員がでて１６名で活動をしている。

委員会は毎月１回（第３木曜日16：00～17：00）開催し、図書整理グループ・看護研究支援グループ・広報活動グループの３グループに分かれて活動している。貴重な１時間を有効に使用し、楽しく話し合いや作業をしている。その様子は静かな図書室にはふさわしくなく、机いっぱいに本をならべて整理したり、コンピュータに向かい資料作りをしたりと、活気ある委員会を行っている。（図１）

図１．委員会風景

１．図書整理グループ

図書整理グループは、図書室の図書管理や政策医療分野別の希望図書の購入、図書目録の整備、看護雑誌の製本等を行っている。今年の６月の委員会では、各看護単位の協力を得て約４時間かけ図書室の大掃除と図書の整理を行った。白衣から運動着に着替え長年にわたって積もった埃を取り、廃棄手続きをとる図書を分別した。

２．看護研究支援グループ

看護研究支援グループは、昨年度作成したスライド作成のマニュアルと、iMacによる文献検索手順のマニュアルをファイルに入れて各看

いわしま　きくみ：国立京都病院　看護部図書委員長

護単位に配布し、誰でも手軽に使用できるようにした。4月当初はコンピュータの使用方法も未熟な委員もいたが、自らスライド作成を実際に行って確かめ、使用方法を指導できるようになっている。また、iMacによる文献検索以外に文献検索方法はないかと研修に参加して勉強し、看護研究支援ができるように努めている。現在は、CD-ROMを使用した文献検索手順の作成などを行い、看護部の誰もが看護研究における文献検索をスムーズにおこなえるよう支援活動を行っている。

3．広報活動グループ

広報活動グループは、「らいぶらりぃ」という機関紙を年3回発行し、新刊図書紹介や、図書室の利用状況をアンケート調査し、その結果を紹介して図書室利用率を向上させるように努力している。機関紙の作成は、自分達でテーマを選び、写真を撮ったり自分達で現場に行って記事にする内容を考えたりしている。また、コンピュータを使って手作りの機関紙を作成している。（図2）

本はがんばる貴方を応援します。

らいぶらりぃ

No.5 2000.7.31
発行者：国立京都病院 看護部 図書委員会

看護研究室をご存知でしょうか？

看護部では看護研究室を所有しています。しかし、残念なことにこの事をご存知でない方が多いためか、十分に活用されていないようです。

そこで今回、たくさんの方にこの研究室を活用して頂けるように、紹介したいと思います。看護研究室は、研修棟（リハビリ室のあるところです）の3階の奥にあります。

利用方法の例としては、看護研究について進行、準備、打ち合わせ等、各委員会の会議、勉強会の会場として、活用方法は多々ありますのでぜひご利用ください。また、救急蘇生のアモストレーションの出来る人体モデルがあります。看護技術を磨くために、皆さん、ぜひご活用ください。

研究室にはたくさんの機材（OHP、スライド、スクリーン、パソコン等など）やビデオもありますので、ぜひご利用下さい。

利用方法は看護部長室で鍵を借りれば利用できます。では、看護研究室の決の写真をご覧ください。

（コピー機能の付いたホワイトボード）

スライド作成マニュアルを知っていますか？

図書委員会では、看護婦はスライドの作成方法がわからないため、看護研究等にスライドを使用することが出来ないという意見がありました。そこで昨年度、当委員会ではスライド作成マニュアルを作成しました。現在そのマニュアルは各病棟にファイリングされておりますのでぜひご利用ください。ご利用にあたり不明な点がありましたら、図書委員までお問い合わせください。

（社会救急訓練用の人体モデル）

（誰でも使えるノートパソコン）

図2．機関紙「らいぶらりぃ」

Ⅲ．看護図書室に関するアンケート結果

次に、看護部の図書室が看護スタッフにどのように活用されているか、アンケート結果をもとに紹介する。

アンケート　配布：306名　回収：246名

1．回収率：80%

2．図書室の利用状況

アンケートに回答した70%のスタッフは図書室を利用しており、その理由は研究を目的とするものが半数以上を占めていた。（図3．4．5）

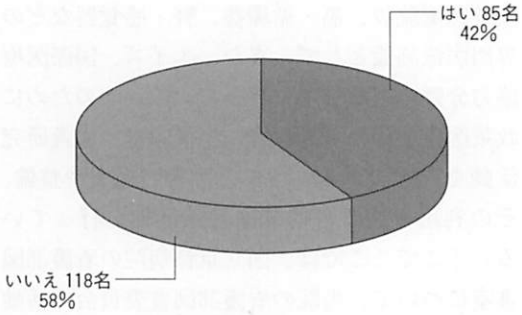

図3．図書室を利用したことがあるか

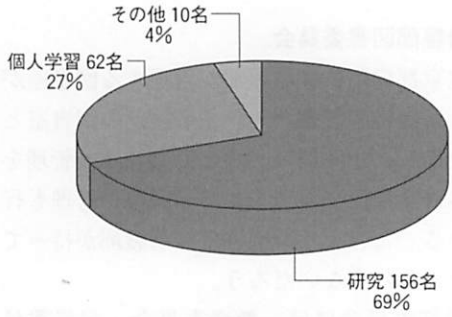

図4．図書室を利用した理由

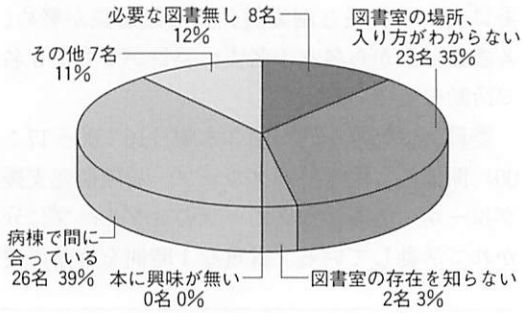

図5．図書室を利用しない理由

図書室を利用しない理由は、「病棟図書で間に合っている」が一番多かったが、次いで「図書室の入り方がわからない」が多かったのには意外だった。医局と同じ入り口であり、ロックされていることで暗証番号などの周知や図書室のアピールが必要かと思われる。その他の自由回答には「自分で買っている」「業務疲れ」「時間が取れない」などであった。「本に興味がない」と回答したのは何と０名で、図書委員としてはホッとした。

個人学習での利用率が少ないのは希望図書の不足や個人での購入が考えられる。(図６)

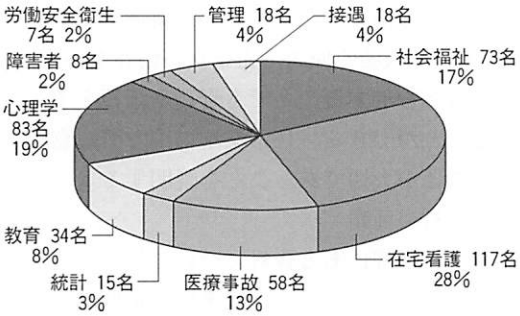

図６．購入希望図書

３．iMacの利用状況について

80％のスタッフが看護部の図書室にiMacがあるのを知っているが、実際利用したことがあるのはその半数以下であった。操作手順があるのを知っているのも半数程度であり、利用度数が増えるように働きかける必要がある。

Ⅳ．むすび

当院の図書室司書の小田中さんには、図書整理の方法や文献検索の方法、コンピュータの使用方法などいろんな事を教えていただき、委員会活動に協力してもらっている。今後も政策医療に促した図書の整備と、看護研究に役立つ図書室であるように活動していきたい。また、図書室利用率の向上に向けてＰＲ活動も強化していきたい。